

## 令和4年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	壮志会
事 業 名	先進地視察 佐賀県伊万里市 「子どもの読書環境づくりの取組について」 事業について
事 業 区 分	①研究研修                      ②調 査

### 1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市立図書館の建設は老朽化が激しく課題となってきたが、IT化の進みから今後の図書館運営の改善を求められている。

佐賀県伊万里市において平成19年より取り組んできている「家読」、平成28年に宣言した「日本一のうちどくのまち・いまり」の事業等を参考に当市の施策に資するため先進地の視察を行う。

### 2 実施概要

実施日時	視察先	佐賀県伊万里市
令和5年2月1日(水) 9:00~11:00	担当部局	伊万里市図書館
報 告 内 容	<p>1 市の概要 人口 約53,000人                      内18歳以下 約6,000人 佐賀県の北西部に位置し、深く入り込んだ伊万里湾を擁し長崎県と隣接する。伊万里港は古く、「古伊万里」「石炭」の積出港として栄えた。</p> <p>2 市の特徴 伊万里港に近い地の利を活かし、工業団地の整備が進められている。また陶磁器生産も大川内山のみならず市内各所で行われている。農業は米、葱(小葱)・みかん・梨・葡萄(巨峰、ワイン原料にも利用されている)が盛んで牛肉は、“伊万里牛”ブランドとして知られている。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>① 家読とは 家族で読書の習慣を共有することを目的に、平成19年4月に茨城県大子町で始まった。大子町では小学生が考えた「家読五つの約束」がある。伊万里市では、家読に特別なルールはなく、家族で、学校で、地域で「どんなやり方がいいのか」を決めるところから、コミュニケーションのきっかけとしている。</p> <p>② なぜ伊万里市が家読を始めたのか 平成16年の小6同級生殺傷事件および平成18年頃のいじめによる子どもたちの自殺が全</p>	

\* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

国で大きな社会問題となっていた。伊万里市では子供たちのいじめのない豊かな心を育て、思いやりの心あふれるまちづくりを進めるために「いじめなし都市宣言」を行った。

先ず、「体と心の健康を取り戻そう」から始まり、体は食育で、子どもの豊かな心を育むために考えたことは、①親子の会話があふれる②子供が安心して生活ができる家庭が必要なこと。

「心の健康は、親とのコミュニケーション」であり、その為にはどうすればと悩んだ際、当時の市長が雑誌の「PHP」で家読の事を知る。

読書には新たな発見があり、子供たちの感情も豊かになる。さらに家族で、親子で本を親しむことで会話が増え、絆が深まることから家読の推進が決まった。

大子町より2か月遅れでスタート。

平成19年6月から、伊万里市のモデル地区であった黒川町では「親（家族）と子の心をつなぐ家読のすすめ」の取り組みを始めた。

黒川町は数年前に公民館建て替えの際、住民から図書室を作ってほしいとの要望があり、入口正面に図書室設置。建設時に図書購入予算がつき、本が充実しており、オープン後も土曜日にボランティアが図書室を運営している。

報  
告  
内  
容

③ 家読の主な取組

ア 「リレー家読」

・学級において一冊の本を決め、家に帰り親子で読み、共有のノートに感想を無記名で書く。この取り組みは、同じ本を読んでいる為、共有のノートにある他の人の感想を読むことができ、多様性を感じることが出来る。親は感想でも子供の事でも書いてよいとなっている。先生は授業でも使うことができる。

イ 「家読フェスティバル」

・読書にかかわる行事

保育園 本にちなんだお遊戯

小学校 ほんの一部を切りとり群読や劇、読み語り

学校、PTA、地域の取り組みの発表、講演会

ウ 「家読」から「うちどく」へ

家読と表記していたが、うちどくとひらがな表記に変えた。家読としていると、家でやることと思われていたので、家以外でも読書をしようとひらがなとした。

④ 活動の状況

ア 市立図書館は平成7年に開館し「子どもが本を読まないまちに、未来はない」を合言葉に、子どもの読書推進に力を入れてきた。

イ 自動車図書館、車2台で市内の21保育園、1幼稚園、1認定こども園、11小学校、4中学校を巡回し、個人貸出のほかに団体貸出、学級貸出などで読書活動の支援を行っている。

ウ 平成17年からは「子どもの読書活動推進計画」を策定し、幼稚園、保育園、小中学校、公民館、ボランティアグループの代表などが委員として子どもたちの読書

環境の整備、充実や読書量の増加に取り組んだ。

平成 21 年「第二次子どもの読書活動推進計画」策定

平成 22 年 10 月 24 日「こども読書のまち・いまり」宣言

平成 28 年「第三次子どもの読書活動推進計画」策定、「日本一のうちどく推進のまち・いまり」宣言

平成 29 年市民図書館内に「うちどく推進室」設置

令和 3 年「第四次子どもの読書活動推進計画」策定。

エ 「図書館を使った調べる学習コンクール」開催、うちどくで培った読書の力を調べる学習に活かし、子ども達の学びを広げていく機会を設定している。

⑤ ボランティアについて

市から補助はなく、子どもゆめ基金からの補助で活動し、主に講演会に使用している。図書館や子どもの読書活動は、たくさんのボランティアによって支えられている。

- ・ブックスタートボランティア
- ・幼稚園、保育園、市民図書館で読み聞かせをする「おはなしキャラバン」
- ・小中学校の朝読みボランティアの集まり「おはなしネットワーク」
- ・対面朗読の「草ひばり」
- ・昔話を語る「三〇会」(現在休止中)
- ・布の絵本やタペストリーを制作「てんとうむしの家」

4 まとめ・市政に活かせること

伊万里市の図書館は平成 7 年に建て替えとなり、その中に読み聞かせのスペースや展示場、会議スペースがあり読書活動に関わる活動が活発におこなわれており、企画スペースには話題の本などを置き、読みたくなるように工夫し、知ることの楽しさを感じさせている。上田図書館は、老朽化が著しく改築が必要と思われるが、今後建て替え、改修となった機会に学ぶスペース、感じるスペースは考えてほしい。今後は IT 化が進むことにより、現状のままだと、読書離れが進み、その結果図書館利用が下がり、建て替えの必要性が無いと考えられてしまう。まずは、子どもから本を好きになってもらうことが大事と考える。その一つとして読み聞かせがある。読み聞かせの活動は市内各小学校で実施しているので、サポートの充実、本の勧めなど随時図書館の利用に促進する取り組みから始めてもらいたい。そして、家に帰り今日聞いた本の内容を話題の中心となるように努めていきたいと思う。うちどくは、本を読むこと、話題となることにはとても良い活動と思う。伊万里市が提唱していた、いくつかの言葉の中で一番印象に残ったのは、「本を使った人と人とのつながり」だった。本も人と人との繋がれる一つのツールとなる。大事にしていきたい文化である。

